



会派清新
東元 勝己

避難所の運営について

質問 避難所における女性専用スペースの設置について伺う。

答弁 新型コロナウイルス感染症拡大防止策の一環として、ほとんどの避難所においてワンタッチ式パーティションを導入して避難スペースの個室化を図り、できるだけ避難者同士の接触を抑止し、感染を防止したいと考えています。同時にパーティションの導入で、周囲からの視線が完全に遮断された中で避難者の皆さんには落ち着いて滞在環境を提供できるものと考えており、互いの目を気にすることなく着替えや就寝などができるといったメリットもあります。

個室化された避難所内では避難者同士の接触はほとんどないものと考えていますが、自分に割り当てられた以外のパーティションへの訪問を禁止するなどのルールを徹底するほか、希望者には防犯ブザーの貸し出しなどを行うことで

避難者の精神的・身体的被害が発生することがないよう対策を講じていきたいと考えています。

そうした避難所の想定の中で、さらに女性専用スペースを設けることは、かえって女性が滞在する場所であることを明らかにしてしまふことにもなりかねず、その可否も含め検討を要するものと考えています。

公用車損傷事故の防止対策について

質問 毎年公用車両の損傷事故が発生しているが、事故防止のための具体策を伺う。

答弁 日頃より全職員に対し常に安全運転を心がけるよう注意喚起を行っているほか、外部講師を招いた安全運転講習会を毎年開催しています。また、今年2月にすべての公用車にドライブレコーダーを設置したことにより、事故件数もここ数年の平均値を下回っています。加えて、ドライブレコーダーに記録された実際の事故映像を分析して講習会での教材として活用するなど、再発防止策につなげていきたいと考えています。



新政会
安楽 良幸

後世に受け継ぐ合同墓の設置について

質問 令和2年第3回定例会において、合同墓の早期設置について質問した際、次年度に設置する方向性で検討する旨の答弁を受けた。

設置にあたっては、収蔵(納骨)者の心情や、本市の人口規模を踏まえ、すでに設置が終わっている他自治体の状況を参考にして、格調高くかつ収蔵可能数の多い、後世に受け継ぐような合同墓を設置すべきと考えるが、市の見解を伺う。

答弁 合同墓のイメージについては、市民の皆さんに後世まで受け入れられる滝川市の合同墓として、認識されるものとします。お墓らしさを基本に、埋蔵する遺族への心情に配慮し、厳かで格調高さを兼ね備えた墓碑と周辺との調和に留意し、本市の人口を勘案した収蔵数を確保できる施設となるよう検討を進めます。

質問 受付や料金設定、収蔵要領など、市民に対し、どのような手

段で周知するのかを伺う。

答弁 令和3年4月以降の適切な時期に、広報たきかわや市公式ホームページに掲載するほか、パンフレットを作成するなど、可能な限りの対応を検討しています。

防災試験放送の実施について

質問 令和2年9月1日に(株)エフエムなかそらの協力を得て、本市における災害発生時の予備指揮所である滝川消防庁舎から20ワット出力で試験放送を実施した。災害発生時は電波伝搬の安定度や強度が異なる50ワット出力での放送が可能と聞いているが、なぜ、災害発生時を想定した50ワット出力で実施しなかったのかを伺う。

答弁 災害時には電波法に規定される臨時災害放送局の免許を受けて出力を50ワットに上げての放送を想定しています。

今回は総務省から関係規定に照らして平時に臨時災害放送局の免許は認められないとの見解が示されました。

今後、総務省には実用性などの検証確認の必要性等を重ねて説明し、平時での試験放送の実現に向け取り組んでいきます。